



平成 23 年 2 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社アイ・オー・データ機器
 代表者名 代表取締役社長 細野 昭雄
 (J A S D A Q ・ コード 6 9 1 6)
 問合せ先
 役職・氏名 社長室 室長 真田 秀樹
 電話番号 076—260—3377

営業外損失(為替差損)の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

平成23年6月期第2四半期連結累計期間における為替差損の計上及び平成22年11月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 為替差損の計上

昨今の為替相場の変動により、平成 23 年 6 月期第 2 四半期累計期間において、為替差損 4 億 6 百万円を営業外費用に計上いたします。

なお、上記は平成 23 年 6 月期第 2 四半期末時点での為替相場の影響による為替差損であり、今後の為替相場によりこの額は変動いたします。

また、為替差損の計上による業績への影響等につきましては、業績予想の修正数値に織り込んでおります。

2. 平成 23 年 6 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想数値の修正 (平成 22 年 7 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回予想 (A)	23,000	△700	△950	△1,170	△84 円 59 銭
今回修正 (B)	23,320	△491	△880	△788	△57 円 10 銭
増減額 (B－A)	320	209	70	382	
増 減 率 (%)	1.4	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 6 月期第 2 四半期)	20,569	143	115	314	23 円 4 銭

修正の理由

当企業グループの当第 2 四半期連結累計期間の業績は、伸張する地上デジタルTV関連需要に対応した製品の拡充を図り、新たな増設需要の獲得に努めた結果、売上高は概ね前回予想に沿って進捗しました。利益面については、販売価格が概ね安定して推移する中、第 1 四半期にて損失を招いた在庫の調整も進み採算性が改善したことに加え、グループを挙げ取り組んだ原価低減が奏功し、営業利益および経常利益は前回予想を上回りました。四半期純利益につきましては、前述の要因の他、法人税等調整額に 1 億 60 百万円を計上した影響により、前回予想を上回りました。

3. 平成23年6月期通期の連結業績予想数値の修正（平成22年7月1日～平成23年6月30日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想（A）	48,500	△450	△670	△920	△66円52銭
今回修正（B）	48,500	△300	△700	△550	△39円83銭
増減額（B－A）	0	150	△30	370	
増減率（％）	0.0	—	—	—	
（ご参考）前期実績 （平成22年6月期）	44,632	312	350	566	41円26銭

修正の理由

当企業グループを取り巻く経営環境は、世界経済の減速の影響や円高、デフレの継続により、先行き不透明な状況が続くものと予想されます。また、市場の見通しとして、家電エコポイント制度の変更にともなう駆け込み需要の反落や、企業のIT投資の冷え込みの継続等への懸念もあり、予断を許さぬ状況が続くものと予想されます。

このような状況の下、当企業グループは、一層の在庫圧縮と原価低減に取り組むとともに、今年7月の完全デジタル化を控える地上デジタルTV関連市場やスマートフォン、中小規模事業者向けデータ管理ソリューション等の成長分野への展開を強化し、利益改善に努めてまいります。

以上により、第2四半期連結累計期間の業績進捗を勘案し、通期の業績予想について精査いたしました結果、売上高は前回予想値に変更はございませんが、営業利益および当期純利益は前回予想を上回る見通しにありまことから、前回公表いたしました予想を修正いたします。

（注） なお、この資料に記載されております業績等の予想数字につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は状況の変化により、この資料に記載されている予想とは異なる場合があることをご承知おき下さい。

以 上